モリブデン2割高

年初比、銅相場の高騰波及

鉄鋼用添加剤や特殊鋼に使うレアメタル（希少金属）であるモリブデンの価格が上昇している。銅などの副産物として採取されることが多く、銅相場高騰の影響が波及している。軍事用の特殊鋼やパイプラインなどに使われ、景気動向の影響を受けにくい面も材料視されている。

軍事向けなど 中国不況に耐性

欧州市場の三酸化モリブデンのスポット（随時契約）価格は14日、1ポンド24ドル台と2023年9月以来の高値をつけた。年初に比べ21%高い水準だ。

モリブデンは鋼材の強度などを高めるのに使う。野村証券の高島雄貴エコノミストは「モリブデンは銅鉱石の供給動向の影響を受けやすく、銅価格とモリブデン価格は連動性が大きい」と指摘する。

銅の国際指標となるロンドン金属取引所（LME）の3カ月先物は5月20日に一時1トン1万1000ドル台と過去最高値を約2年ぶりに更新。足元では利益確定売りが重なっているものの、目の1万ドル近辺の水準維持し、モリブデンに思惑的な買いが入りやすくなっている。

モリブデンを銅鉱石から分離する際には、一定量の銅も含まれてしまう。鉱山会社は銅価格高騰局面では採算性が低い銅生産に注力する傾向がある。その際モリブデンを分離せずに銅精鉱として輸出することが多く、モリブデン供給が減少するという観測も強まりやすい。

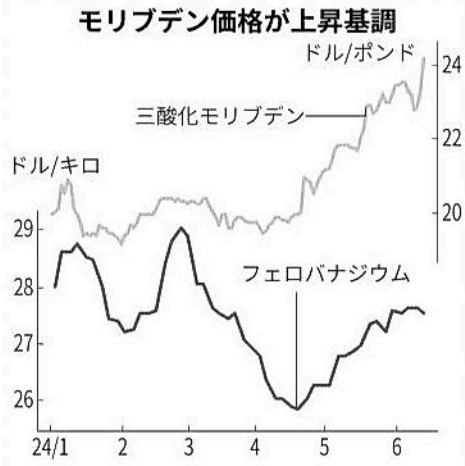
モリブデンの主要消費国は中国だ。アドバンストマテリアルジャパン（東京・千代田）の松村洋合金鉄部長は「中国の鉄鋼メーカーはモリブデンの購入に積極的な姿勢だ」と指摘する。

中国の5月の製造業購買担当者景気指数（PMI）は3カ月ぶりに好調・不調の境目である50を下回るなど中国景気の先行き不透明感は強い。ただ「軍事用の特殊鋼やパイプラインなどで使われるモリブデンは景気動向の影響を受けにくい」（松村氏）といい相場の押し上げ要因となっている。

鋼材に添加するレアメタルの値動きはまちまちだ。鉄筋用棒鋼の強度向上などに使うバナジウム価格は4月にかけて下落。その後は上昇基調だが、モリブデン相場ほどの伸びはない。指標となるフェロバナジウムの欧州市場でのスポット（随時契約）価格は1キロ27ドル台半ばと、年初比で横ばい圏だ。

中国では不動産市況の低迷が続き、建築向けなどの鋼材需要も軟調だ。松村氏は「同じく鋼材に添加されるレアメタルでも、バナジウムは不動産市況の悪影響を受けやすい」と話す。主要消費国である中国景気の底入れの兆しが強まれば、鋼材用レアメタル相場全体が上値を追う展開も予想される。

モリブデンは銅の副産物として採取されることが多い



（注）欧州スポット価格

掲載日 2024年06月19日 日本経済新聞　朝刊 017ページ © 日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。

許諾番号30099441　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。